

平成 29 年度 (自 平成 29 年 4 月 1 日 ~ 至 平成 30 年 3 月 31 日) 研究サマリー

研究会名称	二次性副甲状腺機能亢進症に対する PTx 症例についての疫学と予後に関する調査	
代表者所属	名古屋第二赤十字病院 内分泌外科	
代表者氏名	一森 敏弘	(印)
<p>【研究目的と概要】</p> <p>本研究では、本邦における腎不全に合併する二次性副甲状腺機能亢進症例(以下 2HPT)における副甲状腺摘出術(以下 PTx)の実施数の把握と登録患者における前向きな予後の追跡調査を行うことを目的としている。</p> <p>PTxは、2HPTの内科的治療の限界を超えた症例についての生命予後・QOLの改善を期待した積極的適応として、日本透析医学会のガイドラインにも掲載されているが、これまで日本ならびに世界においても、その実施状況についての情報は集積・登録されておらず、患者の予後についての追跡調査も各施設で任意で行われていたに過ぎない。そこでまず、2009年度よりPTx実施状況アンケートを実施し、実施施設に対し、PTx症例の患者登録による前向きな予後調査を2010年1月からスタートさせ、現在も継続している。</p> <p>調査票の回収率は、研究開始時は93.3%の回収率であったが、年毎に減少し昨年は50.0%未済までに低下した。しかし、得られた調査結果は日本透析医学会等にて発表し、2015年度までのデータは、PTx研究会のホームページにて公表し、随時更新している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページURL (http://2hpt-japs.jp/) ・ 調査結果は下記論文にて公表し、またこれまでに得られた知見を書籍にてまとめた。 <p>また、2HPTに対するPTx研究会(Japanese Association of Parathyroid Surgeons)は、腎不全に合併する二次性副甲状腺機能亢進症例に対する副甲状腺摘出術の技術の研鑽と普及、臨床研究の実施ならびに会員相互の情報交換を図ることを目的として設立され、年1回学術集会を開催しており、研究成果を本研究会においても公表している。</p>		
<p>【研究成果 (学会発表)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 62 回 日本透析医学会学術集会総会 (横浜 2017 年 6 月 17 日) 「わが国の SHPT に対する PTx の現況」 ・ 第 9 回 二次性副甲状腺機能亢進症に対する PTx 研究会 学術集会にて調査結果を報告 		